



シンボル・マーク

子と親・幼稚園が  
ともに手をとりあっ  
て未来への飛躍を願  
うもので、親と幼稚  
園が子どもを育む姿  
を岩手の「い」に象徴  
している。

# 広報岩私幼連

VOL

117

\*(題字は工藤巖元岩手県知事)



『みんなで よいしょ！手にも足にも  
心にも…力をこめて！！』

## 最近の話題



一般社団法人 岩手県私立幼稚園・  
認定こども園連合会

会長 今西 界雄

この度、5月の定時総会において当連合会の会長職をお預かりさせて頂くこととなりました。卓越したリーダーシップを発揮され、当連合会を14年という歳月をけん引されてきた前会長であらせられました坂本洋先生の後を継承することにためらいを感じながら、微力ではありますが精一杯務めさせて頂く覚悟であります。各園の先生方におかれましては、ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

### ○乳幼児施設の今後の展望

さて、今年度の全日本私立幼稚園連合会において会長であらせられます田中雅道先生よりご挨拶がありました。その中で「行政は待機児童政策から供給過多になっている乳幼児施設の統合整理に舵を切ろうとしているようである。」という話を頂きました。少子化が進み待機児童が解消されつつある地域が多くなってきていることを鑑みた時、十分ありうる話であると思います。昨今少子化は止まるどころか、その出生数は約81万人と昨年よりも約3万人減少し、1899年の統計調査開始以来過去最少となり、今年中には80万人を割り込む勢いで減少の一途をたどっていることは、既にご案内のとおりであります。第2次ベビーブーム時

と比較してもその出生数は、約39%にすぎません。その影響は、既に社会現象として現れており、乳幼児施設の充足率の低下や人手不足などはその一例であると考えます。しかし、子ども達の育ちの環境を考えた時、安易に統合整理を行っていかまわらないはずはありません。田中会長は、今後の行政の動向を注視して、今まで乳幼児施設を支えてきた歴史を踏まえてどのように行政に提言をしていくかが今後重要な課題となることを提示されました。場合によっては、各園が適正な利用定員を設定しなおすことや場合によっては機能分担を明確にした法人合併も視野に入れていかなければならないこともありうると思います。人手不足も深刻な問題で、特に施設型給付園では、人手不足による3号認定である乳幼児の受け入れができない状況も生じていることも聞き及んでいます。私学助成園においても教員確保は喫緊の課題で、その対策は急務であります。昨今の学生は、求人情報をネットで検索することが一般的になっており、紙媒体の求人表では、用をなさなくなっているとのことであります。学生の情報収取媒体に対応できる体制の構築も急がなければならない課題の一つであります。全日本私立幼稚園連合会で現在運営している「幼稚園ナビ」などはその有効な一つの一つでありますので、その活用の周知を図ったいかなければなりません。研修申し込みも今後「幼稚園ナビ」とおして申し込み込むことが一般的なことになるでしょうし、自己の履修管理も「幼稚園ナビ」などのネットで行うことが求められていくことでしょう。まさに society5.0 社会に向けた取り組みが必須となっていくと考えられます。

### ○高度情報社会への取り組み

society5.0 社会は高度情報社会であり、どの業界でも情報を扱う技術が求

められます。society5.0 社会では、今までばらばらに構築されてきたプラットフォームの情報を、仮想空間に蓄積されたビッグデータに集積してAIによって現実空間と有効活用することができるよう再構築されていきます。その再構築されたデータを必要な時に必要な情報を受け取ることが出来るようになるわけですが、それに伴ってその活用技術の習得が必要になります。来年度より施行される新しい研修項目にはICT活用に向けた履修科目が設けられる予定であるのもその一環であると考えられます。

### ○いわて幼児教育センターについて

また、今年度から「いわて幼児教育センター」スタートして就学前教育の充実に向けて様々な課題に取り組もうとしています。特に義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、「架け橋期」と呼び、生涯にわたる学びや生活基盤をつくるために重要な時期であると位置づけ、一人一人の多様性や0～18歳の学びの連続性を配慮して、教育内容や方法を工夫することが求められています。その中でも特に求められるのが、子ども一人一人の様子を見定める教師の洞察力と深さが求められているということです。そのための研修のあり方も重要な位置づけになってくるものと考えます。「幼保小の架け橋プログラム事業」への積極的な参画が望まれます。

### ○最後に

すでに報道でご存じの全日本私立幼稚園連合会の不祥事については、未開示の情報が多くまだまだ全貌が明らかになっておりません。今後、捜査が進んでいく段階で新たな情報が入り次第お知らせさせていただきます。

## いわて幼児教育センターの紹介 ～本県の就学前教育の質の向上に向けて～

岩手県教育委員会事務局学校教育室  
義務教育課長

いわて幼児教育センター長 三浦 隆



皆様におかれましては、日頃より本県の就学前教育の振興に御尽力いただき、また、新型コロナウイルス感染症への対策が続く中、幼児期にふさわしい生活の保障に心を砕いていただいていることに感謝申し上げます。

今年度、いわて幼児教育センターが開所いたしました。本県における就学前教育の質の向上のためには、就学前教育に関係する部署、各団体、全ての就学前教育施設において、それぞれの専門性を生かしながら各々が主体的に取り組むとともに、関係機関が連携・協働していくことが求められます。

いわて幼児教育センターは、岩手県幼児教育推進連携会議の下、各関係機関との連携・協働により、県全体の就学前教育の振興に係る推進体制の構築に努めてまいります。

また、次の3つの機能により、就学前教育の質の向上を図ってまいります。

### 【研修】

県内の幼稚園、保育所、認定こども園等の保育者を対象とした研修を体系化し、いわて幼児教育センターが所掌している研修の実施・機能強化を図るとともに、その他の研修実施主体との連携・調整を行うことにより、研修の更なる充実を図ります。また、「幼保小の架け橋プログラム」の実施に向けて、就学前教育と小学校教育の円滑な接続に資する研修の充実にも努めてまいります。

### 【訪問支援】

県内の幼稚園、保育所、認定こども園等の要請に応じ、幼児教育専門員が園を訪問し、保育現場のニーズに応じたきめ細やかなアドバイスを行うことで、園内における研修の促進や人材育成の充実を図ります。また、市町村幼児教育アドバイザーに対する研修や訪問支援を行い、地域に密着した訪問支援の効果を示すことで、その配置・活用の促進に努めます。

### 【調査研究・情報共有】

就学前教育に係る調査研究を実施し、その効果を各市町村及び県内の就学前教育施設等へ普及し、各市町村における幼児教育推進体制構築を促進します。また、県内外の各園における教育・保育実践についての好事例の収集し、情報の共有を図ります。

歩み始めたばかりのいわて幼児教育センターですが、県内すべての保育者と、すべての子どもたちのWell-beingのために、スタッフ一同、力を尽くしてまいります。今後とも皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

### 令和4年度いわて幼児教育センター

センター長	三浦 隆
主任指導主事	福岡喜久子
主任指導主事	吉田 澄江
主 査	道下 龍弥
幼児教育専門員	佐藤みき子
幼児教育専門員	千葉満佐子

## 令和4年度新任教諭研修会報告

教育研究副委員長 根内 純

今年度もコロナ禍の中でしたが、十分な感染症対策を行い、計4回の新任教諭研修会を行うことができました。第1回盛岡市総合福祉センター53名、第2回北上さくらホール30名、第3回奥州市文化会館31名、第4回盛岡市総合福祉センター51名の参加者がありました。

研修は、幼児教育：坂水かよ先生（5/21 岩私幼連副会長）、千葉紅子先生（5/21 岩手大学教育学部附属幼稚園副園長）、藤原奈央先生（5/28 横川日こども園園長）、障がい児保育：高萩彩子先生（5/28 盛岡誠桜高等学校保育士専攻科教員）、阿部真弓先生（6/4 岩手県立総合教育センター教育支援相談担当）、乳児教育：今西界雄先生（6/4 岩私幼連会長）、高木宏子先生（6/11 みどりの保育園園長）、食育・アレルギー対応：浅沼美由希先生（6/11 岩手県立大学盛岡短期大学部講師）と、毎回講師の先生に恵まれて、充実した学びを行うことができました。

参加された新任の先生方には、今回の研修で学んだことをそれぞれの園で生かしていただきたいと思います。

# 東北地区私立幼稚園設置者・園長研修・岩手大会 基調講演要旨

東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会  
大会開催実行委員長 坂本 洋

当日の基調講演は、①幼児期における良質な教育・保育推進の今後の行政課題と題し、文部科学省初等中等教育局・幼児教育課長 大杉住子氏、②私立幼稚園連合会としての体制改革の課題と今後の取り組みにつき、全日本私立幼稚園連合会会長 田中雅道氏のお二方から今後の課題対応の貴重なお考えを拝聴できました。

## 基調講演 1

大杉幼児教育課長は、当日配布した資料を基に社会的背景として急激に変化する時代を迎えて、子ども達に育むべき資質や能力を「令和の日本型学校教育の構築を目指す内容」として挙げられ。その一例として、この一年間でもコロナ禍の中で早急に幼児教育として留意して育むべき実践事例集を紹介。またこども家庭庁の創設についても、幅広く子どもを取り巻く環境変化は、施設を利用する子どもばかりでなく社会保障全体像の課題が山積していて、それを一元的一体的に総合施策として実現する行政省庁の設立発想議論を紹介されました。

ともあれ次代に必要で育むべき資質や能力は、幼児教育から義務教育、高等学校教育までを見通した、3つの柱①知識・技能の基礎、②思考力・判断力・表現力等の基礎、③学びに向かう力・人間性等が基本で、さらには幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を具体的な姿として明確化することで、幼児期の学びの質の向上と保障をかけた、小学校教育に円滑に接続することが出来るよう工夫しておくことを強調。

更に今春から保幼小架け橋プログラムの実施に向け具体的な取り組みをしておりますが、その基本は全ての5歳児に生活・学習の基盤を保障、保幼小連携で一人一人の発達把握と早期支援、市町村教委と連携し小学校教育に円滑に接続を目標にしておくこと。なお推進対応は、各県の幼児教育推進体制(幼児教育センター)の構築で各市町村施設での職員研修の充実を目的に、幼児教育アドバイザーの養成研修や職場訪問研修派遣の具体化を実現することの各県事例を紹介。

結びとして、こども家庭庁が創設されても日々大事なことは幼児教育をより充実させていくことで、そのためには



基調講演をする大杉幼児教育課長

上記で述べた育成を目指す資質と能力は勿論のこと、個別最適な学び(指導の個別化と学習の個別化)及び協働的な学びが一体的に充実するよう各先生方が努力されることを行政組織として支えことが肝要と纏められました。

## 基調講演 2

田中氏は、まず4、5歳児の幼児期における教育環境が、その子の生涯生活を左右すると言われるヘックマン等の研究成果に基づく政策が、世界各国の国家的課題として進められ、わが国においても子ども子育て支援新制度として施行されている。しかし改めての課題としては、例えば自由入園と8時間保育について、現状は11時間保育となり入園も措置と認定との関わりで施設入園の自由な選択に至らず、保育料の公定価格の基準や将来的財政措置等も課題として挙げられると思う。また今後は建学の精神に基づく私学としての在りようや、現状の財政基盤の私学助成の将来として、法的には新制度に全ての園が移行する前提の仕組みへの課題、建学精神の質の担保や独自性に対する利用者(保護者)へのニーズ要請にどう応えられるか。

更には社会的要請である、2歳児や満3歳児教育を制度としてどう対応できるか。少子化による園児減少に伴う小規模園の存続課題。なお、こども政策の新たな推進体制及び幼保一体化構想に基づく「こども家庭庁」創設による、こどもがまんなか社会の実現については、子どもの成長にとって不可欠な教育部分は現状文科省のもとで充実することから、両者のより一層密接な連携が必要。と課題を挙げられた。

## ◎岩手県ふるさと振興部学事振興課の紹介

～本県の私立幼稚園教育の良好な環境づくりに向けて～



岩手県ふるさと振興部学事振興課  
総括課長 米内 靖士

皆様におかれましては、日頃より本県の私立幼稚園教育の振興に御尽力いただき、また、新型コロナウイルス感染症対策に取り組まれていることに感謝申し上げます。

学事振興課では、令和元年10月から実施されている「幼児教育・保育の無償化」を円滑に進めるとともに、「いわて県民計画（2019～2028）」に掲げた「私学教育の充実」に向け、各園の創意工夫を生かした特色ある教育活動への支援を通じて、私立幼稚園教育の良好な環境づくりに取り組んでおります。

また、本年度から「いわて幼児教育センター」が設置され、就学前支援に係る研修や、幼児教育アドバイザーを活用し、就学前教育施設への訪問活動や調査研究などを進めていくこととなりました。

県としても、子ども及び保育者が、主体的に学び、Well-beingを実現することができるよう取り組んでまいります。

子どもたちが健やかに成長されるよう、安心・安全な園の環境づくりのため、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 令和4年度学事振興課事務分担表(私学振興担当)

※幼稚園関係のみ抜粋

私学振興担当	事務分担	担当者
	1 私学振興の総括に関すること 2 私学関係団体に関すること（訪問・陳情含む） 3 議会に関すること（私学振興担当所管分に限る。） 4 学校事故報告に関すること（新型コロナウイルス感染症関係を含む。） 5 その他特命事項に関すること	主幹兼私学振興担当課長 引屋 敬 努
	1 その他特命事項に関すること	特命課長 (特定課題) 本正 義樹
	1 私学振興担当事務の総括に関すること 2 私立学校の指導に関すること 3 県民からの提言に関すること 4 その他特命事項に関すること	主任室長 戸塚 教仁
	1 災害復旧費国庫補助・県補助に関すること 2 いわて県民計画、復興計画、国土強靱化地域計画及び岩手県教育振興計画に関すること 3 幼稚園設置法人及び私立幼稚園に関すること 4 私立学校運営費補助（教育改革推進特別経費、幼児特色）に関すること 5 子ども・子育て支援新制度への移行に関すること 6 子育てのための施設等利用給付負担金に関すること 7 その他特に命じられたこと	主任 山崎 仁嗣
	1 私立学校法施行細則関係の届出に関すること（幼稚園、小・中学校、高校、専修学校） 2 私立学校調査仕支援助業費補助に関すること 3 私立学校施設整備費補助金（台帳・財産処分等）に関すること 4 学校法人及び私立学校に対する諸通知に関すること 5 その他特に命じられたこと	主任 佐々木 義規
	1 その他特に命じられたこと	主 事 飯田 美紗子
	1 私立学校審議会に関すること 2 私立学校運営費補助（一般補助分）に関すること 3 私立学校関係予算及び決算に関すること 4 学校教育法施行細則及び私立学校法施行細則に関すること 5 私立学校施設整備費補助金（台帳・財産処分等）に関すること 6 災害復旧の報告に関すること 7 その他特命事項に関すること 8 その他特に命じられたこと	主 事 佐藤 智哉
	1 私立学校被災児童生徒等就学支援事業に関すること 2 学校法人及び私立学校に係る調査、統計及び報告に関すること 3 緊急スクールカウンセラー等活用事業費に関すること 4 その他特に命じられたこと	主 事 内藤 晴平
	1 私立学校運営費補助（私立幼稚園特別支援教育費補助）に関すること 2 助成対象法人の事務検査に関すること 3 私立学校振興費等補助金関係説明会に関すること 4 私立学校関係事務及び表彰に関すること 5 その他特に命じられたこと	主 事 柚 はなの
	1 補助金の審査補助に関すること 2 私立学校式典等へのメッセージの送付に関すること	会計年度任用職員 (視学支援専門員) 藤原 浩子
	1 諸台帳の整備及び書類の整理に関すること 2 学割に関すること 3 学校法人及び私立学校に対する諸通知の事務補助に関すること	会計年度任用職員 (事務補助) 宮野 麻子

## ◎保健福祉部子ども子育て支援室の紹介

～認定こども園を取り巻く動向について～



岩手県保健福祉部子ども子育て支援室  
室長 高橋 久代

皆様におかれましては、日頃から本県の子ども・子育て支援施策の推進に御尽力いただき感謝申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症対策に取り組まれ、教育・保育活動を維持いただいていることに対し、重ねて御礼申し上げます。

さて、本年度はいわて県民計画（2019～2028）における令和5年度からの重点政策等を定める「第2期アクションプラン」を策定する年となります。少子化の進行や就業形態の多様化等、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化中、子ども・子育て支援施策について、皆様から現場目線に基づいた御意見を頂戴していきたいと考えております。

当室では、引き続き、安心して子どもを生み育てられる環境をつくるため、妊娠、

### 子ども子育て支援室事務分担表(子育て支援担当)

認定こども園に係るもの(令和4年4月1日～)

事務分担	担当者
子育て支援担当の総括に関すること	主任室長 吉田 光
子育て支援担当の関係条例・規則等に関すること	
子ども・子育て支援新制度の総括に関すること	
子ども・子育て支援事業支援計画に関すること	
認定こども園の認可、認定に関すること	
子ども子育て会議に関すること	主任 村木 美保
認定こども園の指導監督に関すること	
施設整備給付費・地域型保育給付費・委託費に関すること	
施設の災害復旧に関すること	
保育士確保対策に関すること	
保育士のキャリアアップ研修に関すること	主 事 菅崎 裕平
児童福祉研修事業（新任保育士、潜在保育士研修）に関すること	
保育士養成施設に関すること	
保育所入所待機児童・保育所アンケート調査に関すること	主 事 葛谷 華奈
地域子ども・子育て支援事業に関すること	
認定こども園の施設整備に関すること	
保育所等の環境整備に関すること	
子育てのための施設等利用給付交付金に関すること	
産休等代替職員等設置費補助金に関すること	主 事 葛谷 華奈
保育士及び保育教諭に関すること	

出産、子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築や子育てにやさしい職場づくりを進めてまいりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。

## 地区会だより

### 県北 「卒園児との交流を通して」

新型コロナウイルスの感染がなかなか収まる気配のない中、無事1学期が終了しました。

本園では今年度も1号認定の夏休み中に登園日を設け「お楽しみ会」を行いました。

「ゲーム・スイカ割り・流しソーメン」は、こども達がとても楽しみにしている夏の園行事の一つです。流しソーメンでは、ソーメンの他に茹で採れたきゅうり・トマトも流れてきて懸命にすくおうとする姿に思わずほっこりします。また、卒園児を招待した「お帰りのさい会」を同時に開催し更に盛り上がりを見せました。特に年長児は、卒園児から小学校の話を実際に聞く機会に恵まれその話一つ一つに目を輝かせ聞き入っている姿が印象的でした。来年入学する小学校がとても身近に感じられたと思います。「幼保小の架け橋プログラム」の实地にあたり今後、こども達の育ち・学びを支えながら健やかな成長を願い園内外の研修に参加し、より理解を深め幼小の連携の充実を図っていききたいと思います。

(岩手保健医療大学附属認定こども園 園長 平船しずか)



流しソーメン楽しいな!卒園児のインタビュー!

### 盛岡 「社会に開かれた質の高い教育を目指して」



だんご屋さん・ただいま準備中・・・

盛岡地区の先生方が集う研修会も今年度から再開。今年は、感染防止対策の整った会場を借りて研修会を行っています。2年間の積もり積もった思いや今課題となっていること等、先生方は主体的、対話的に話し合いがされていたようです。実りある研修、学びの場となることを期待しています。

盛岡地区設置者・園長例会では、8月29日に「働きやすい職場環境を考える」と題して社会保険労務士の先生からの講話を予定しています。

盛岡地区PTA連合会は、お母さんたちが知りたい、学びたいと持ち寄ったテーマの一つに絞らず、冊子にして情報提供という形で着々と準備を進めているようです。

盛岡地区会は子ども達の幸せを願い学び続けます。

(認定こども園都南幼稚園 園長 植村 生子)

### 中部 「質の高い幼児教育を目指した教員研修の充実を図る」

中部地区では、コロナの感染予防対策をとりながら、教員の資質向上を目指した研修を花巻・北上地区それぞれで年3回ずつ企画し、地区全体では全6回の教員研修会を計画しております。花巻地区では、今年度4月に「幼児教育の意義と小学校との連携」と題して花巻市教育委員会学力向上支援員の伊藤信彦先生に講演をいただきました。小・中学校の学力テストの結果から分析される幼児期に必要な力について学び、自園の保育や保護者への啓発において大切にしたいこと等を教わりました。2回目は、マネジメントと乳幼児保育の分野を8月下旬に、3回目は幼小接続期についての研修を冬に予定しております。

北上地区では、8月上旬に障害児保育の分野、2回目は冬頃に保健衛生の分野における安全対策について、3回目は春先に保育実践の分野の研修を予定しております。

(湯口大谷幼稚園 主任 白藤 千恵美)



4月に行われた研修会の様子

## 県南 「いつか、必ず!!を願って」



テーマに沿ったグループ研究の様子

「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～  
 県南地区一関支部では、2年に1回研究テーマを決め、研究収録「すかわ」を発行しています。今まで（コロナ禍前）のように、当番園に集まり、他園の情報交換があることで、より研究も深まるのですが、今年度もコロナ禍で集まれない為、各園毎にテーマを決めて研究を行い、中間報告を次年度5月に発表し合う予定になっています。

また、令和3年度の岩私幼教員研修大会の記念講演と、令和4年度8月に予定していた県南地区教員夏期研修会が、いずれも、「子どもの造形の発達」講師 菅原順一先生にお願いしていたところでしたが、中止となり、本当に残念でした。次の機会に是非受講したいと思います。

早くコロナウイルス感染が収束し、園児、保護者、職員等々が安心して生活を送ることが出来るように祈るばかりです。

(認定こども園 千歳小羊幼稚園・千歳こひつじ園 園長 三浦 静子)

## 沿岸 「子どもたちの成長を願って」

沿岸地区では、宮古・山田ブロック、大槌・釜石・遠野ブロックに分かれて、両ブロック同じテーマで研究を進めており、今年は新しいテーマでの研究一年目となりましたが、コロナ禍の為、ブロックごとに集まることも難しく、テーマも含め、各園ごとに取り組むことになりました。

我が園では、「一人一人の発達の特性に応じた指導」というテーマで研究を進めることにしましたが、一年目の今年は、園全体で共通理解することを重点に置き、要領解説をよく読み、実際の子どもの姿と照らし合わせながら、自分たちの保育の振り返りをしていきたいと思っています。また、さまざまな場面での子どもたちの姿を受け止め、その姿を踏まえたうえで、引き続きの保育環境や援助を考え、実践に活かしていくことで研究を深めていきたいと思っています。

(認定こども園みどり幼稚園 主幹保育教諭 佐々木 亜希枝)



園内研修の様子

### 岩私幼連の年間行事

#### ○政策委員会

事業名	期 日	開 催 地
第25回岩手県私立幼稚園・認定こども園振興大会	R 4.10.26 (水)	花巻市文化会館

#### ○教育研究委員会

事業名	期 日	開 催 地
第1回新任教諭研修会	R 4.5.21 (土)	盛岡市総合福祉センター
第2回新任教諭研修会	R 4.5.28 (土)	北上さくらホール
第3回新任教諭研修会	R 4.6.4 (土)	Zホール
第4回新任教諭研修会	R 4.6.11 (土)	盛岡市総合福祉センター
第1回教員研修会	R 4.7.29 (金)	盛岡市総合福祉センター
総合研修会・第2回教員研修会	R 5.1.12 (水)～13 (金)	花巻市/ホテル千秋園
第38回教員研修大会(沿岸大会)	R 5.3.24 (金)	宮古市

#### ○経営研究委員会

事業名	期 日	開 催 地
第1回経営セミナー	R 4.8.19 (金)	ホテルメトロポリタン盛岡
総合研修会・第2回経営セミナー	R 5.1.12 (水)～13 (金)	花巻市/ホテル千秋園

#### ○全日私幼連東北地区会

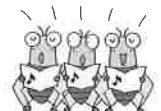
事業名	期 日	開 催 地
第29回東北地区設置者・園長研修会	R 4.6.24 (金)	岩手県盛岡市
第36回東北地区教員研修会(山形大会)	R 4.10.6 (水)～8 (土)	山形県山形市

#### ○(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

事業名	期 日	開 催 地
第13回幼児教育実践学会	R 4.8.20 (日)～21 (月)	徳島県鳴門市

#### ○岩手県教育委員会

事業名	期 日	開 催 地
岩手県幼稚園教育研究協議会	R 4.8.17 (水)	岩手県生涯学習推進センター
岩手県教育研究発表会	R 5.2.9 (日)～10 (金)	岩手県総合教育センター13号



## 新制度定着にともない新たな課題

総務委員長 國分 一彦

収まる気配を見せない新型コロナが、第7波となり全国的に押し寄せ猛威を振るっている。その影響は大きく岩私幼連の諸事業も縮小や変更を余儀なくされています。平成27年度施行された「子ども・子育て支援新制度」が動き出して8年になります。

岩私幼連に加盟する(74園)私立幼稚園も大分移行する園が多くなり、当連合会の看板「(一社)岩手県私立幼稚園・認定子ども園連合会」を表してきました。運営等に関して以前のよ

うな国、県との関係から市町村との結びつきがより強くなっていく運営形態に変わってきました。その中でいろいろな新しい問題も出てきていると思います。今年度はそれらの点を探し、また同時に少子化が加速するなか幼稚園、こども園が抱える問題を総務委員会の立場から考え課題としていこうと思います。

今年度総務委員会の事業活動は、3月に理事会で承認いただいた9項目について対応していきたいと思っています。

## 変り続ける制度と、現場の対応を理解しながら

政策委員長 三ノ宮 治

子ども・子育て支援制度が施行されてから8年になり、この間に処遇改善・保育料の無償化・こども家庭庁の新設など国の政策が次々変わってきています。今まで「待機児童解消」という名目を一番にしてきた行政も、ここで幼児減少という現実から、保育施設の適正化という視点も持ち始めていると感じています。

基礎自治体の教育・保育施設への助成項目等の調査等を行い、私立幼稚園、認定子ども園に求められるものを理解し、その位置付け等について、今後自治体への働きかけが必要となってくると思われま

また、子どもの育ちを保證できる環境づくりについての研究や、幼少連携についても研究が必要です。

新型コロナによる社会的制約の中で、子ども達の育ちが変化していないか等、連合会の各委員会の報告や、地区会の実践・研究を紹介ながら「広報岩私幼連」「イワシヨウジャーナル」を通して課題を発信して行きたいと考えています。

なお、PTA連合会では昨年延期になった中部地区花巻において岩手県私立幼稚園・認定子ども園振興大会を開催する予定です。

## 「豊かな学び」で資質向上を目指します

教育研究委員長 坂水 かよ

マスクを着けての保育も3年目に入りましたが、どんな時でも子ども達の確かな成長が感じられ、私たちにとっての大きな喜びです。今年度も子ども達の笑顔がいっぱい見られる1年でありますように、「常に学び続け、質を高めていく」ことを委員会の使命として努めてまいります。会議や研修会もZoom等ははじめWebでの新しい学びの機会が増え、私たちの“当り前”の幅が急速に広がっているようです。それはうれしいことの1つですが、当委員会の研

修会では共に学び合う仲間を感じながらの「対面での研修会」を基本とし計画・実施していきたいと願っています。

今年度も当初の計画通り5月～7月に新任教諭研修会4回と教員研修会1回を実施できたことを感謝しています。分野別研修も5年目に入り15時間の受講終了方々も増え、学びが積み重ねられていることを実感しています。今年も「共に学び続ける集団」として会員の皆様と前進していきましょう。

## 園運営に資する情報提供を目指して

経営研究委員長 佐々木 栄光

園運営を取り巻く環境は、社会情勢や制度変革に伴って大きく変化しています。未だ収束の兆しが見えない新型コロナウィルス感染症の流行は、県内において過去最高レベルで蔓延しており、保育現場での感染症対策は引き続き緊張感をもった取り組みが求められます。また、少子化に伴う園児減少は深刻さを増しており、令和4年度の始期における県連加盟園の園児総数は、前年比566人の減となり過去に類を見ない減少数を記録しました。一方で制度面では、保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事

業における新制度園と私学助成園の財源格差問題や、教員免許更新制廃止の今後、令和5年4月創設予定のこども家庭庁の制度設計にかかる乳幼児施設への影響の有無等、今後の国の動向を注視していく必要があります。

当経営研究委員会では、今年度も引き続き8月の第1回経営セミナー、1月の第2回経営セミナーを通して、キャリアアップ(マネジメ)研修の実施を中心に、時節に応じた運営課題を取り上げた各種研修会の開催を計画してまいります。

### ●編集後記

北国岩手では、八幡平アスピーテラインの除雪作業が始まると春の訪れに大変心躍りますが、数年前から除雪の雪の高さが低くなっていることを聞くようになりました。そして、令和4年の夏も日本中で大変暑い日が続きました。北海道でウナギの稚魚が確認されましたし、世界では氷河が解ける様子や白くまの映像など温暖化による影響を見聞きする機会が増えました。温暖化防止への対策は、政治家など偉い人たちだけが考えるのではなく、日常生活で一人一人ができることを考え実施しなければならな

いことを感じさせられます。これからの季節も日本中が台風や洪水等の大被害が無く穏やかに暮らせることを願います。

コロナ禍で、3回目の夏を過ごした子どもたちに豊かな経験を重ねられるよう、そして、海水浴をさせたい、お祭りを見せたいなどの親の願いが当たり前になる時が早く来てほしいと願うばかりです。

(つばめ幼稚園 工藤 純世)